

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果から

我孫子市立高野山小学校

4月19日に全国一斉に小学校6年生・中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。これは、自校の子どもたちの学力の把握と学習に対する意識調査の分析を踏まえ、今後の指導に生かすために行われるものです。本校でもホームページを通して結果を公表いたします。

なお、具体的な数値については、学校間の序列化につながってはならないという考えから我孫子市の小中学校では公表を控えていますのでご了承ください。

## 国語A問題（主として知識）

- 県平均・全国平均とほぼ同程度の結果であった。
- 観点別にみると、「話す・聞く能力」「読む能力」は全国平均よりも高い結果であった。
- その反面「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」が全国平均よりも低い結果であった。
- 選択式、短答式の問題形式で比較すると選択式が平均より高く、短答式が平均より低い結果であった。

### 特に正答率の低かった問題

- ・ローマ字の書き
- ・ローマ字の読み

## 国語B問題（主として活用）

- ◎県平均・全国平均とほぼ同程度であった。
- ◎観点別に見てもどの観点でも全国平均とほぼ変わらない結果であった。

## 国語に関して、児童質問用紙の回答から

### （平均よりも大きく数値が上回った回答）

- 国語の勉強は好きですか
- 国語の勉強は大切だと思いますか
- 国語の授業の内容はよくわかりますか
- 国語の授業で学習したことは社会で役立つと思いますか

### （平均よりも大きく数値が下回った回答）

- △読書は好きですか
- △目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか
- △意見を発表するときに、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか

## 算数A問題（主として知識）

- 県平均・全国平均とほぼ同程度の結果であった。
- 観点別では、「数と計算」領域が低い結果であった。  
特に小数の割り算の計算が全国平均よりも低い得点であった。
- 「思考」「技能」「知識・理解」の領域では微量ではあるが県平均を上回った。

## 算数B問題（主として活用）

- 県・全国平均とほぼ同程度の結果であった。
- 観点別に見ると「数量や図形についての技能」の観点が高い結果であった。  
(特に正答率の低かった問題)
  - 数学的な考え方の記述式の問題  
(正方形の縦を2cm長く、横を2cm短くしたときに面積が4 $\text{cm}^2$ 小さくなる説明を書く)
  - 数量の技能  
(ハードル走でインターバルが5mの時4台目のハードルの位置を計算で求める)

## 算数に関して、児童質問用紙の回答から

### (県平均よりも大きく数値が上回った回答)

- 算数の勉強は好きですか
- 算数の勉強は大切だと思いますか
- 新しい問題に出会ったときに、解いてみたいと思いますか

算数に関する質問では、県平均よりも大きく下回る回答の項目はなかった。

## 児童質問紙の結果と考察（平均よりも±4ポイント以上のもの）

### ◎「普段、1日あたりにどれくらいの時間テレビやビデオを見るか」

2時間以上の割合 本校47.7% 全国57.1%

### ◎「普段、1日あたりにどれくらい携帯電話、インターネット、メール等しますか」

1時間以上の割合 本校11.1% 全国18.5%

### ◎「家の手伝いをしていますか」

している・よくしている 本校87.1% 全国82.8%

→ 全国平均に比べて、テレビやネット、ケータイに費やす時間は少ない。家での手伝いもよくしている。家族でのコミュニケーションは比較的よくできていると考察できる。

◎「学校が休みの日にどのくらい勉強しますか」

3時間以上の割合 本校18.3% 全国11.7%

▽「学校の図書室や図書館に本を読んだり借りたりするためにどれくらいいきますか」

月に1~3回以上行く割合 本校25.7% 全国40.3%

→ 休みの日の3時間以上の勉強は自宅学習ではないだろう。進学のための学習塾に通っている児童が全国平均よりも多い。学校での読書や読み聞かせの時間は落ち着いて過ごしているが、自主的な読書はあまりしていない。

▽「家で計画を立てて勉強をしていますか」

している・どちらかといえばしている 本校50.4% 全国62.2%

▽「家で学校の授業の復習をしているか」

している・どちらかといえばしている 本校43.1% 全国55.2%

▽「自宅学習で、教科書を使いながら学習していますか」

している・どちらかといえばしている 本校52.3% 全国64.6%

→ 宿題はしっかりやるが、それ以外の学校の学習は自主的にはしていない。

▽「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」

している・どちらかといえばしている 本校51.4% 全国67.9%

▽「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」

ある 本校31.2% 全国36.2%

→ 地域とのつながりは全国と比べると希薄

▽「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意か」

当てはまる・どちらかといえば当てはまる 本校44.9% 全国51.7%

▽「400時詰め の 原稿用紙に2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」

そう思う・どちらかといえばそう思う 本校65.2% 全国60.4%

→ 消極的。文章表現力が弱い

## 児童質問紙のクロス集計の結果から

学習（学校・家庭・学習塾等）に関する事項、家庭生活や生活習慣に関する事項など合計85項目の質問に対する結果とテストの得点の相関を調べ考察した。

当然の結果ではあるが、学習に対する意欲の高い児童ほど得点が高いことがわかった。しかし、意外なのは学習塾に通っている児童とまったく通っていない児童との得点の比較では、ほぼ差は見られなかった。また、家庭や学習塾での学習時間と得点での相関でもほぼ有意差は見られなかった。それよりも、「毎日同じ時間に起床・就寝しているか」「朝食を毎日食べているか」「家で手伝いをしているか」等の生活習慣に関することや、「自分には良いところがあると思うか」「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思うか」等、自己肯定感に関する質問の方が大きく得点の相関関係がみられた。また、「学校は楽しいか」「学校で友達に会うのは楽しみか」等の学校生活での満足度に関する項目でも大きな相関関係が見られた。

集計結果から、勉強時間を増やすことよりも、よりよい生活習慣を身につけさせること、自己肯定感を高め自

信を持たせること、よりよい学級経営を行い、学校・学級を居心地のよい場所にするこの方が学力を上げるために効果的であると言える。

## 考察（国語・算数の結果と児童質問用紙の回答結果から）

児童質問用紙の結果から、国語・算数ともに教科の学習に対する関心・意欲は高いことがわかる。しかし、得点については、平均並である。得点を観点別に見ると、「書く」領域についての得点が低い傾向にある。授業の中で、少人数グループでの話し合い活動はできるが、話し合いの内容を文章にまとめたり、みんなの前で発表したりすることに苦手意識を感じていると考えられる。

家庭学習に関する項目でも、全国平均よりも数値が低い。宿題等決められた学習はしっかりできるが、計画を立てて自主学習をする力は弱い。

### ○授業改善について

#### ・「書く」活動の充実

黒板を写すだけの活動やドリル学習だけでは書く力は育たない。各学年の実態に応じて、思考を伴う「書く」活動を意図的に設定する。

#### ・アクティブラーニングの推進

「何を学ぶか」から「どう学ぶか」という視点を持ち授業作りをする。主体的に学棒とする児童の育成。